

令和4年度 府立清明高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) 計画段階

学校経営方針(中期経営計画)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
「自分を知り、人とかかわり、ポジションをとる人」を育成する。 そのために、 1 生徒に自信を返す。 2 安心して失敗できる環境づくりを推進する。 3 「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。	1 ICTの積極的な活用により生徒の授業への参加意欲や学習意欲が高まった。今後は生徒が主体性を発揮し、学ぶ楽しさを実感できるための工夫が求められる。 2 生徒会や実行委員会を中心とした学校行事への積極的な参画が見られた。今後も主体的・協働的な活動や社会参画の機会の充実を図ることが望ましい。 3 魅力推進プロジェクトチームによる改革や各種アンケートの見直し等により、学習者起点による学校の魅力化が進んだ。 4 校内体制の確立により、個々の生徒に応じた指導の充実を図ることができた。今後も多様な生徒のニーズや特性に対応すべく、外部連携や校内研修をより発展的に推進していくことが求められる。 5 通級による指導が定着しつつあり、今後はあらゆる教育活動のユニバーサルデザイン化が望まれる。 6 持続可能な教育活動を実現するため、長時間労働の解消はもとより、「働きやすさ」や「働きがい」を感じつつ、健康や精神的な充足感を得られる職場づくりが求められる。	1 「学ぶ楽しさ」を提供するため、指導と評価の工夫改善や授業のデジタルトランスフォーメーションのための研究・実践を行う。 2 サードプレイス(家庭でも学校でもない場所)の活用と探究活動の導入を進め、生徒の主体的・協働的な活動や社会参画の機会を増やす。 3 「生徒をリスペクトする」という信念を共有し、内外の評価を活用しつつ、学習者起点による学校の魅力化を図る。 4 教育活動のユニバーサルデザイン化に向けた本校ならではの手法を研究・実践する。 5 ダイバーシティとワークライフバランスに係る取組を進める。

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	教職員間の協働・連携の強化	部長会議・各種会議・研修の開催方法を見直し、教職員がより主体的・協働的に学校運営に参画できるようにする。				
		教職員間の情報共有と協働・連携の体制を強化し、機動的な学校運営につなげる。				
	効率的・効果的な教職員研修	本校の課題解決に対応した研修をタイムリーに計画すると共に、教職員研修のデジタル化・オンデマンド化を推進し、教職員の力量の向上とワークライフバランスの向上との両立を図る。				
学習支援部	授業のあり方の検討	教科主任会議で各教科の取組や困りごとなどを、検討、協議し、「教え込む教育」から「引き出す教育」への転換を図る。				
		公開授業週間で、新しい授業の実践と評価の研究を行い、その後ワークショップを行うことで、全教職員が実践・研究を共有する。				
	生徒が安心して登校できる環境整備の推進	ウォームアップ週間やリフレッシュデーの設置、定期考査の廃止など、生徒が安心して登校できる学校作りを推進、実施する。				
		フレスタ等、生徒が自身で学習方法を選択できる個別最適化を進め、学習者起点の取組の充実を図る。				

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒支援部	育てたい人間像に合った生徒指導への変革	生徒指導方針を全教職員で共有し、積極的な生徒指導・生徒をリスペクトした生徒指導を行えるようにする。				
		従来の清明高校のルールが、社会や本校の実態にあっているかを検討し、必要に応じて見直しを図る。				
	生徒が主体的・協働的に取り組める活動の充実	つばめ祭・つばめ杯・校外学習といった各行事の内容を充実させ、生徒が安心してチャレンジできる環境づくりをする。				
		担任部と連携して清明サマーキャンプを実施し、多様な体験を通じて自己の成長を目指したい生徒たちが主体的・協働的に活動できる場を提供する。				
進路支援部	キャリア教育の充実	総合的な探究の時間「みらい(社会的自立支援プログラム)」の時間に、計画的・系統的な進路学習を行うことを通じて、キャリア教育を推進する。				
		社会的・職業的な自立に向け、インターンシップやボランティア活動、高大連携など、外部機関と連携を行い、生徒の主体的な社会参画の機会を設定する。				
	個別最適化とダイバーシティに係る取組の推進	生徒のニーズに応じた、進学先への継続した移行支援や、適切な就労先の選択に向けた支援を充実する。				
		進路実現に向けて、生徒の進路希望に応じた学習方法や学習内容の個別最適化を進める取り組みを充実する。				
教育相談部	特別支援教育の充実	多様な生徒のニーズや特性に対応すべく、教育活動のユニバーサルデザイン化に向けての手法を研究・実践していく。				
	教育相談の充実	生徒情報の共有の仕方を工夫し、全教職員で課題の早期発見に努め、関係各所と連携し、生徒を多面的に支援する。				
	健康教育の充実	感染症予防など、自己の健康の保持増進について、生徒に正しい知識を身につけさせ、適切に対応できるようにさせる。				
総務企画部	広報活動の充実	生徒主体のオープンキャンパスやオンライン相談会など、清明高校の良さを前面に押し出し、様々な事情で学校に登校できていない生徒にも清明高校の魅力を発信できるような説明会を実施する。				
		YouTube配信やTwitter、広報のオンデマンド化など、より手軽・身近に清明高校を紹介する広報活動・取組を企画し、実践する。				
	ICTを活用した授業改善	AI学習アプリやVRなど、ICTを用いたさらなる教育方法を研究・実践し、授業のデジタルトランスフォーメーションを図る。満足度アンケートでICTを活用した授業について、満足度90%以上を目指す。				
	図書館の効果的な活用	生徒の探究学習を支援するとともに、学校内でのサードプレイスとしての機能を高める。				

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
F担任部 入学年次	「学校に来る」という目標のもと継続した登校により、清明高校という場を社会的自立の一步としていく。	担任・副担任で、家庭や外部機関と連携し、生徒状況の把握に努め、生徒一人ひとりが過ごしやすく安心して登校できる環境づくりを行う。				
		基本的な生活習慣の確立や、挨拶・身だしなみの指導を通して社会生活の基礎が身に付くようにする。				
	自分を肯定的に捉えられる機会を提供する。	教科担当者と連携し、ICT機器等を活用し、出席を促したり、提出物の連絡をしたりすることで、登録した単位修得を可能にする。				
		総合的な探究の時間や特別活動を通して、生徒が様々な活動の機会に主体的・積極的に参加することの喜びを感じられるようにする。				
M担任部 中間年次	清明高校の中で人と関れるようにする支援	HRや学校行事、総合的な探究の時間を利用して様々な人の価値観に触れ、多様性を認め合える雰囲気を作る。				
		学校行事の実行委員会への積極的な参加を促し、他学年や地域の人と関わる機会を作る。				
	清明高校の中でポジションを取れるようにする支援	自分の好きなことをより深め、同じ話題でつながれる人同士をつないでいく。好きなものをより深めていく中で清明高校での自分の居場所を見つけさせ、力を発揮させる。				
		総合的な探究の時間を通して自分ができること、学校ができていることを考える中で清明高校の魅力と課題について考え、よりよい学校にするための方策を提案できる場を設定する。				
S担任部 中間年次	社会的自立に向けた支援	担任・副担任を中心とした教員や他職種等と家庭の連携・協働による多面的な指導を推進し、生徒一人ひとりが安心して学習活動に参加できるよう、自己及び他者を認め、尊重し合える年次経営をする。				
		総合的な探究の時間や特別活動等を通じて、社会生活に求められる意欲や態度の醸成に努める。				
	生徒一人ひとりの目標実現にむけた個別支援	生徒の持つ強み、取組への姿勢や過程を含めた成果等を意識的に評価し、客観的な自己理解や自己肯定感につなげる。				
		学校行事などをとおして、学級間や年次間などで多様な価値観に触れる場面を設定し、人と関わる力の充実をはかる。				
G担任部 卒業年次	個々の生徒が自己理解を深め、ライフプランに基づいた希望進路が実現できるように指導・支援する。	HR活動、総合的な探究の時間、学校行事等の機会を通じて、自己の適性にあった取組方法や役割を実践的に確認したり、調整したりする中で、将来を見据える力を育成する。				
		家庭や校内、関係機関等との連携を通じて、共通理解と協働により、生徒への指導・支援を行い、進路実現につなげる。				
	多様性の受容や他者との協働など、社会のニーズに応じた自立を果たすために必要な資質、能力の伸長に努める。	HR活動、総合的な探究の時間、学校行事等において、他者を認めながら協働するといった活動の機会を設ける。				
		学校内外のリソースを活用し、ライフスキルの活用や今日的な問題解決に向けた実践ができる機会を提供する。				

領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
事務部	生徒が学ぶ楽しさを実感し、また学校生活の中で、自信と社会的実践力を身に付けられるような教育環境の整備	教科分掌と連携し、必要な教育環境を整備、また時代に対応したICT機器の整備更新を行う。				
		生徒が安心して学校生活を送れるよう就学支援金等及びBYOD導入に伴う支援制度による支援を適切に実施				
	ワークライフバランスを実践するための働きやすい職場環境整備の推進	業務負担を軽減できる方策を検討する				
		生徒・教職員からの声も聞きとり又要望に応えられるよう柔軟な対応をめざし教職員がより働きやすい職場環境づくりの推進				

(評価の基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった)

学校関係者評価委員会による評価	
次年度に向けた改善の方向性	